

新型コロナ・レプリコンワクチンに看護倫理学会が緊急声明を出し注意喚起の異例事態へ

9/9 ピンズバ NEWS 編集部



新たなワクチンは安全なのか？ ※画像はphotoACより（ピンズバNEWS）

今年10月を目途に接種開始予定といわれ、今、世間を騒がせている次世代型 mRNA ワクチンの「レプリコンワクチン」。

それに対し、日本看護倫理学会が異例とも言える緊急声明”を出した。

「日本看護倫理学会ということは、いわば医療関係者の“身内”。その団体が、このワクチンの接種に対して安全性および倫理性に関する懸念を表明したんですから、国民からしたら不安

しかないですよ」（全国紙科学部記者）

そもそも、このレプリコンワクチンは、これまでのワクチンと、どう違うのか。

「従来のコロナワクチンは、コロナウイルスのタンパク質を作るもとなる遺伝情報の一部（mRNA）を体内に入れることでウイルスの免疫を作るというものでした。レプリコンワクチンは、その mRNA が体内で自己増殖するタイプに改変したものです」（前同）

ウイルスを構成するスパイクタンパク質が自己増殖するから少量の投与で効果が長続きするというメリットがあるとされるのだが、なぜ、そのワクチンに「安全性および倫理性に関する懸念」があるというのか。

「実は、このワクチン、開発国であるアメリカや大規模治験を行なったベトナムでは認可が下りていないものなんです。つまり、安全性を確認できるまでデータが収集されていないということです。

それなのに、なぜ日本で認可されたのか。しかも、認可されているのは世界でも日本だけなんです」（同）

■レプリコンワクチンに言われる懸念

実際、以下のような懸念”があるといわれている。

(1) 接種者の飛沫から非接種者に感染する恐れがあり、これに対する臨床実験もなされていない。

(2) 自己増殖に歯止めが効かなくなり、永久にスパイクタンパクのトゲトゲが生産され続ける恐れがある。

(3) そもそも mRNA が人体の遺伝情報に影響を及ぼさないという確証がない。

これに対し、予防医学の専門家で『新型ワクチン騒動を総括する』（花伝社刊）などの著書がある新潟大学名誉教授の岡田正彦氏が、こう説明する。

「mRNA ワクチン接種後、呼気や唾液から排出されるスパイクタンパク質は極めて微量で、それを周囲にいる人が吸引したとしても、すぐに分解されてしまい、感染が成立するリス

クはゼロに近いと思われます。実験が行なわれていないので断言はできませんが、この点に関してだけ言えば、従来の mRNA と同じではないでしょうか?」

こう述べる岡田氏だが、そもそも、従来の mRNA 型ワクチンに関しても疑問だらけだとして、こう言う。

「ワクチンの有効率について 95%以上と報告されていましたが、実際はどうでしょう。多くの人が心配してきたのは、mRNA という遺伝子を体内に入れて大丈夫なのかということです。この点を調べたデータは多数あるんですが、一般に知られていません。

そんな中で、これに自己増殖” という新しい機能を加えたワクチンですからね。もっと治験や実証実験を行なうべきです。いずれにしても、このようなワクチンは使用すべきでないというのが私の見解です」

5類に移行して騒がれなくなったものの、現在も感染が流行しているといわれる新型コロナウイルス。新型ワクチンにさまざまな面から注目が集まる――。

ピンズバ NEWS 編集部

